

# 子育て支援の更なる充実に

## ついて問う



質問者  
唐澤 一代 議員



(1) 文部科学省の調査によると、全国の小・中学校の不登校児童・生徒数は増加傾向にある。松田町における現状と、今後不登校特例校分教室を開設するお考えは。

(2) 災害時の対策として、防災ガイドライン等に、妊産婦及び避難所で産まれた新生児に対する応急処置等の詳細を記載するお考えは。

(3) 保育園の給食に地場産業（足柄茶等）の食材を取り入れることにより、食育の推進や郷土愛の向上、営農者支援にも繋がります。全体的な活性化が期待できるが町としてのお考えは。



コスモス館（地元の野菜等販売）

ている。現状では不登校特例校分教室を開設する意向はないが、先進的事例を参考に、状況に応じた丁寧な支援・指導をしていく。

(2) 令和3年6月に作成した「松田町避難所運営マニュアル基本モデル」においては、妊産婦を要配慮者と位置付けているが、避難所で産まれた新生児に対する応急処置等については記載がない。令和5年度に地域防災計画等の改定を予定しているため、改定内容に盛り込んでいく。

(1) 当町においては「ほほえみ教室」と呼ばれる教育支援センターを、平成13年度に設置し対応し

### 先進事例等も参考に改定や推進していく

回答  
(教育長、町長)



(3) 様々な相乗効果が生まれ地域課題の解決にも繋がると期待できる。積極的に地場産の食材を取り入れて頂くよう引き続き推進していく。

# 「熊」出没による住民の

## 安全対策について



質問者  
古谷 星工人 議員



「熊」の出没が相次ぎ、9月以降、虫沢地区では目撃、萱沼地区、弥勒寺地区では監視カメラに記録されており、いつ「熊」と出会うか危険な状況です。

### 危機感をもって対応する

回答（町長）



次のことについてお伺いいたします。

(1) 神奈川県内および足柄上地域の「熊」の生息状況はどうなっていますか。

(2) 地域住民の安全確保対策はどのように考えていられますか。



クマ用ワナ

(1) 県内のツキノワグマ生息頭数は、平成24年の推計では約40頭となっている。

足柄上地域の正確な生息数は把握できていない。

県内全域の目撃情報における足柄上地域割合は高い比率で推移しており、相当数が生息すると思われる。

(2) 熊の出没は町民の生命・財産への脅威であるため、同報無線や安心メ

ール等により注意喚起を行う。同法無線での放送は熊の目撃、確認用カメラに映り込みを確認してから放送している。

ツキノワグマは絶滅危惧種I類に指定されているため基本的に保護が前提となっている。

出没を減らすための対策として家庭ごみの屋内保管、農地の適正管理などを徹底、熊に遭遇した場合の対処方法の啓発に努める。

地域住民の理解と猟友会、神奈川県と連携し危機感をもって対応する。

寄地区に出没したクマ

